

#### 旧町夕一覧主…1~

| 旧町名   | 町名の由来   | 現在の町名   |
|---|---|---|
| 南新町   | 本多正純の日光街道の付け替えによって城下への南の入口に付いた町名。   | 花房2、3丁目/新町1、2丁目                                   |
| 熱木町   | 一般には熱木の不動尊が祀られていたことに由来する説と、神への供物「贄(にえ)」である鳥獣を掛ける木があったことから贄木町(にえぎ)とも呼ばれていた。                                    | 花房2丁目/新町1丁目<br>西原3丁目/一条4丁目                        |
| 歌橋町   | 昔、当地に住んでいた人が歌を詠み万葉集に載ったという伝承からの町名の起こりとあるが根拠はない。   | 一条3丁目/西原3丁目/<br>一条4丁目                             |
| 大黒町   | 大黒天を祀った祠堂があったことに由来。傍らに宇都宮城の裏鬼門除けとして神明宮がおかれた。  | 一条3丁目/西原2丁目/<br>西3丁目                              |
| 伊賀町   | 武家屋敷が多くあり、芳賀伊賀守の屋敷があったことに由来。  | 西原1丁目/西原2丁目                                       |
| 蓬莱町   | 中国の伝説である神仙が住み、不老不死の薬がある蓬莱山にちなみ蓬莱観音を祀る観音堂があったことに由来。  | 西3丁目/西原1丁目  |
| 茂破町   | 本多正純が日光街道を開くとき、繁茂した藪を切り開たとするいわれの町名。<br>(明治の初め頃から昭和の町名改正時、茂登町となる。)   | 西2丁目/大寛2丁目/<br>西原1丁目                              |
| ช <del>อยชอมอ</del><br>沙 <b>挽路町</b>                 | 本多正純が日光街道を開くとき、付近の道を西側へ引いて町を作った(引路町)からとも、町内に轆轤(ろくろ)挽きの家が多かったからともいわれている。                                       | 西2丁目/大寛2丁目  |
| 代官町   | 武家屋敷が多くあり、江戸時代初め、代官屋敷が置かれたことに由来。(明治の初め頃から昭和の町名改正時、大寛町となる。)  | 大寛1、2丁目/材木町/<br>西原1丁目                             |
| ざいもくちょう   | 藩の御用材を調達する材木問屋が軒を並べていたことに由来。  | 伝馬町/西1、2丁目/大寛1、<br>2丁目/材木町                        |
| がいもくよこちょう )材木横町                                     | 材木町の横(西)にのびた横丁に由来し、大運寺の門前町として開け、傘屋・桶屋などがあった。(明治の初め頃、西原村との境になっていたので、境町となる。)                                    | 材木町   |
| いちのすじ にのずじ<br>②一ノ筋 ③二ノ筋<br>さんのすじ よんのずじ<br>④三ノ筋 ⑤四ノ筋 | 城の外堀西に位置する武家屋敷町で、城の近くから南北通りを順に一ノ筋、二ノ筋、三ノ筋、四ノ筋と呼んでいた。城から遠くに行く程、屋敷は狭くなっていった。(明治の初めころから昭和の町名改正時、一条町、二条町、三条町、四条町) | 江野町/伝馬町/宮園町/松<br>が峰1、2丁目/花房2丁目/<br>西1~3丁目/一条1~4丁目 |
| <sub>しんこくちょう</sub><br>ら新石町                          | 元和5年(1619)、下町の米穀商3軒が当地に移転しててきて、初めは西石町と呼ばれ後に新石町となった。   | 伝馬町/小幡1丁目   |
| ほんごうまち ア本郷町   | 江戸時代、釜川の西側一帯を西原と称し、その本村であったので本郷町と呼ばれるようになった。  | 小幡1丁目/泉町  |
| <sup>ぉぱた</sup> まち<br>8 <b>小幡(旗)町</b>                | 街道口の防備にあたった徒士組(かちぐみ)の小旗組が住んでいた武家屋敷に由来。  | 小幡1、2丁目/清住2、3丁目                                   |
| UMTM545<br>到 <b>新田町</b>                             | 西原に開発された新田が、日光街道沿いに人家が増え、新田町と呼ばれるようになった。(明治8年(1875)、餌差町の一部を併せて清住町となる。)  | 清住町1、2丁目/小幡1丁目                                    |
| でんまちょう  | 日光街道と奥州街道の分岐点にあたり、問屋場(といやば)が設けられ、荷を運ぶ人馬(伝馬)が備えられていたことに由来。本陣をはじめ沢山の旅籠屋が軒を並べ、城下で最も賑やかな場所であった。                   | 伝馬町/泉町/小幡1丁目                                      |
| こでんまちょう<br>① <b>小伝馬町</b>                            | 伝馬町の発展に伴ってできたことから起こった町名。  | 泉町  |
| まさしまち 創差町   | 鷹狩りの鷹の餌となる小鳥を捕らえる餌差人が住んでいたことに由来。(明<br>治の初め頃、壽町となる。)   | 泉町  |
| いけがみちょう<br>沙 <mark>池上町</mark>                       | 宇都宮の中心部は昔、池邊郷(いけのべのごう)と呼ばれていたが、その中心部がこの付近である。また、鏡が池の上部にあったことから池上町となったといわれている。                                 | 伝馬町/泉町/池上町/本町                                     |
|   |   |   |

## 【旧町名一覧表…2】

| 旧町名                                  | 町名の由来  | 現在の町名                          |
|--------------------------------------|--|--------------------------------|
| いけがみうらまち<br>②池上裏町                    | 池上町の裏側に開けたことに由来し、単に「裏町」とも呼ばれていた。(明治22<br>年(1889)、泉町となる。)                                   | 泉町/本町                          |
| 1938年<br>②鼠 穴                        | 武家屋敷地の一つ。城の大手門前の広小路(現在の池上町にある亀田書店からオリオンスクエア付近)から伝馬町に抜ける近道。ここが鼠の通るような細道だったことからついた俗称。        | 伝馬町/池上町/江野町                    |
| えのまち<br>②6 <b>江野町</b>                | 本多正純による町割りの際、古い堀を埋めて町場とした。通りだったところを整備してできた町。最初は「江戸町」といったが、大榎木があったので「榎の町」から「江野町」になったとの説もある。 | 伝馬町/江野町/池上町/宮<br>園町/中央1丁目/中央本町 |
| ②杉原町                                 | 宇都宮大明神(二荒山神社)の社地で、杉の木が多かったことに由来。   | 本町/塙田2丁目/馬場通り1、2丁目             |
| でつぼうちょう<br>② <b>鉄砲町</b>              | 戦国時代の終わり頃、宇都宮氏が鉄砲鍛冶を住まわせたことに由来。職人、商<br>人が多く住んでいた。  | 馬場通り1、2丁目/曲師町                  |
| #ifuちょう<br>② <b>曲師町</b>              | 江戸時代の初め頃、曲物師(檜や杉の薄い板を曲げて容器などを作る職人)が当地に移り住んだことに由来。  | 曲師町/中央本町                       |
| 30 馬場町                               | 宇都宮大明神(二荒山神社)の門前町として開けたところで、流鏑馬を行う「馬場」に由来。「バンバ」は俗称。  | 馬場通り1~3丁目/曲師町/<br>二荒町          |
| 31 <b>釈迦堂町</b>                       | 宇都宮氏の旦那寺であった東勝寺の釈迦堂の跡地にできたことに由来。二荒山神社から延びる丘陵を開いて道を通した当初は、「切り通し」とも呼ばれていた。                   | 馬場通り3丁目/二荒町                    |
| ③□野町                                 | 蒲生秀行が宇都宮城主となったとき、蒲生氏の出身地である近江国日野(滋賀県日野町)の商人を東勝寺の跡地に住まわせた事に由来。                              | 二荒町                            |
| ひのよこちょう<br>③日野横町                     | 元和6年(1620)に宇都宮大明神(二荒山神社)から大工町まで抜ける「切り<br>通し」ができるまでは、日野町側が入り口の袋小路であったのに由来。                  | 馬場通り3丁目                        |
| せんじゅまち 34 干手町                        | 江戸時代に千手院という千手観音を祀る寺があったことに由来。  | 馬場通り3、4丁目/二荒町                  |
| おだちょう<br>③ 小田町                       | 伝承では宇都宮大明神の神田があり、「御田」と呼ばれたことに由来。(明治39年(1906)に描かれた宇都宮真景図によると、この辺りにアサリ沼があった。)                | 塙田3丁目                          |
| <sup>みやじまちょう</sup><br><b>36 宮島町</b>  | 湿地で囲まれた島のような地形であったので、「宇都宮の島」から宮島になったといわれている。   | 馬場通り4丁目/宮町/大通り<br>1丁目/仲町       |
| ③今小路町                                | 本多正純による町割り変更の際、城の北東部から奥州街道へつなぐ新しい「小路」を作ったことから今小路町となった。                                     | 一番町/二番町/二荒町                    |
| つるぎのみやまち (38)剣 宮町                    | 古い剣を納め祀る「剣宮神社」という祠があったことに由来。現在は二荒山神社境内に移されている。   | 二荒町/中央5丁目                      |
| ろっけんちょう<br>③の六軒町                     | 宇都宮城の今小路門前広場の西側にあたり、ここに六軒の家があったことに 由来。江戸時代の中頃に今小路町に統合された。                                  | 中央5丁目/二荒町                      |
| ●とこくちょう ④元石町                         | 江戸時代初めまでは「東石町」と呼ばれ、米問屋があったが、本多正純による町割り変更の際、他に移り住んだので「元石町」となった。                             | 二番町/三番町                        |
| <sup>こくちょう</sup><br><b>④</b> 石 町     | 戦国時代から穀類の専売権を認められた商人が住んでいたのに由来。新石町<br>の穀物商人を支配していたこともある。                                   | 一番町/二番町/三番町                    |
| ayatas<br>42 <b>肴町</b>               | 本多正純による町割り変更の際、六軒町にあった魚屋(乾物が主)を大町に移し、肴町と呼んだのが由来。   | 大通り2丁目                         |
| ************************************ | 奥州街道沿いで宇都宮城下の中心的な問屋街。大膳市が開かれたので、「大膳市の町」から「大町」に変化。  | 馬場通り3丁目/大通り2丁目/<br>一番町         |

## 【旧町名一覧表…3】

| 旧町名                               | 町名の由来   | 現在の町名                    |
|-----------------------------------|---|--------------------------|
| だいくちょう<br><b>44 大工町</b>           | 築城の際に大工を住まわせたことに由来するといわれているが、江戸時代に<br>は職人を広義で大工と呼んでいたことから職人の町を意味する。                                   | 大通り1、2丁目                 |
| でらまち<br>45寺 町                     | 生福寺、法華寺、妙金寺が並んでいたのに由来。町内は全て三つの寺院の門前地であった。   | 大通り1丁目/仲町                |
| いいしゅくちょう<br><b>④新宿町</b>           | 上河原で開かれていた「市」が参勤交代などの通行で支障をきたしたため脇道に移され、大町の大膳市より新しくできた市なので「新宿市」と呼ばれ町名になった。                            | 大通り1、5丁目/仲町              |
| おおぎちょう                            | 扇、団扇(うちわ)職人が住んでいたことに由来。   | 仲町/栄町/宮町/塙田3丁目           |
| こかどちょう<br>48 <b>小門町</b>           | 宇都宮城下の北東端に位置し、間口が小さい家が多く並んでいたことに由来。   | 栄町                       |
| かべちょう<br>49 <b>壁 町</b>            | 壁職人が住んでいたことに由来。   | 千波町                      |
| せいがんじまち<br>5 <b>0清巌寺町</b>         | 清巌寺の門前町に由来。(明治の初め頃、清水町となる。)   | 大通り5丁目/千波町/仲町            |
| かみがわらまち<br>⑤ <b>上河原町</b>          | 元は田川の河原地で、中河原、下河原に対して上流にあるので上河原となった。奥州街道沿いの細長い町人町で「新宿市」に移る前の元の市があった場所。現在も続く「初市」はその名残り。                | 大通り1~5丁目/一番町             |
| ②小袋町                              | 大きく蛇行する田川に北・東・南を囲まれた半月状の袋小路になっている地形に由来する。   | 大通り3、4丁目                 |
| おしきりちょう<br>③ <b>押切町</b>           | 田川の氾濫によってしばしば土手が決壊し、水害をもたらした地に由来。旭橋 (現・押切橋)は、水戸、真岡方面に向かう主要な橋だったので、人馬の往来が 多かった所。                       | 大通り3丁目/天神1丁目/<br>三番町     |
| ぱくろうちょう<br><b>9 博労町</b>           | この付近に腕の良い伯楽(馬の医者)が住んでいたことから、伯楽町が転じた説と、博労(馬や牛の仲買人)が住んでいたのに由来する説がある。奥州街道の出口に位置し、馬喰町とも書かれた。              | 今泉1丁目/駅前通り1丁目            |
| <sub>ようかいちば</sub><br>⑤八日市場        | 本多正純の町割り変更前の奥州街道沿いで開かれていた八日市を、道場宿街道沿いに移したのが由来。(明治22年(1889)宿郷町となる。)                                    | 駅前通り2丁目/南大通り<br>1丁目      |
| S的紺屋町                             | 慶長5年(1600)、城主蒲生秀行のとき、城下にあった紺屋をこの地に移したのが由来。(江戸期、八日市場に吸収。)  | 駅前通り2丁目                  |
| <sup>なかじゅく</sup><br><b>⑤中 宿</b>   | 江戸時代に中宿と呼ばれ、宇都宮藩上級武士の下屋敷や下級武士の屋敷な<br>どがあったが、江戸時代後半に八日市場や宿郷村の一部になった。                                   | 南大通1丁目                   |
| かわむこう<br>5 <b>8川 向</b>            | 城下から見て、単に田川の向こう側なので川向。上級藩士の下屋敷や足軽下屋敷があったので「川向侍屋敷」と呼ばれた。(明治11年(1878)に川向町となる。)                          | 駅前通り1~3丁目/南大通り1~4丁目/宮みらい |
| 9東新町                              | 武家屋敷地でしたが、正徳4年(1714)、奉行人屋敷を移して新しく町屋とした。城下の東にできた新しい町なので「東新町」(明治初期、川向町に吸収。)                             | 駅前通り3丁目                  |
| <sup>さるがちょう</sup><br><b>⑥ 猿が町</b> | 簗瀬村と宿郷村の境に位置し、馬の健康祈願のために厩で猿を舞わせる猿引き(猿回し)が住んでいたのに由来するといわれているが、田川沿いの氾濫に関係する町名と思われる。「サル(去る)」は氾濫による侵食の意味。 | 南大通り2丁目                  |
| ⑥下河原町                             | 元は田川の河原地で、上河原、中河原に対して下流にあるので下河原となった。下河原門を出たところに位置し、武家地と簗瀬村との境。  | 下河原1丁目/河原町/<br>花房1丁目     |

※ <mark>橙色文字</mark>は、弘化4年(1847)の宇都宮大明神祭礼の付け祭りに参加した氏子町。青色文字は、武家地で、原則町名は無く 俗称でした。二荒山神社の門前や、東の町人が多く住む地域を下町、西の武家地が多い地域を上町と呼び、現在でも何かと対 抗意識を持っているのが宇都宮人のこだわりです。旧町名は、自治会の名称として現在も生かされています。

# 宇都宮市は、二荒の森を中心に門前町、城下町、宿場町として古い歴史とともに発展してきました。しかし残念なことに、戊辰戦争と第二次世界大戦により、多くの歴史的資産が失われてしまいました。そこで、宇都宮市をより深く知るために、旧町名と城下絵図に着目し、現代の地図に城下絵図を重ね合わせた『宇都宮"江戸時代"歩き地図』を制作しました。この地図を片手に街なかを歩いて、新しい発見を楽しみながら、本市の長い歴史に想いを寄せてみませんか。



- 荒山神社: 江戸時代まで長らく宇都宮大明神と称して神仏習合でした。また名称においては他に日光山大明神、あるいは二荒山大明神、宇都宮神社などと称されたこともあります。

■出典

□ 日光山大明神祭礼絵巻:﨑尾秀彰氏蔵 画像提供栃木県立博物館・ 宇陽略記:個人蔵 画像提供宇都宮市教育委員会■ 日光山大明神祭礼絵巻解説文引用

・栃木県立博物館 「とちぎの山・鉾・屋台」 2017 より引用、一部改変 ■参考文献一覧

・宇都宮市教育委員会 「宇都宮の旧跡」1989 「宇都宮の軌跡≪改訂版≫」1999
 ・宇都宮市 「宇都宮市史 第6巻近世通史偏」1982
 ・宇都宮市 「宇都宮市六十周年誌」1960

・宇都宮商工会議所 「宇都宮商工会議所百年史」1994 ■執筆者 (50 音順)

・大嶽 浩良 おおたけ ひろよし
 宇都宮市文化財保護審議委員会委員、著書「下野の明治維新」など
 ・柏村 祐司 かしわむら ゆうじ
 栃木くらし文化研究所代表、著書「栃木民俗探訪」など

文星芸術大学非常勤講師、著書「宇都宮城物語」など

企画・編集・制作: NPO法人宇都宮まちづくり推進機構 宮再発見専門委員会
発行者: NPO法人宇都宮まちづくり推進機構 〒320-0806 栃木県宇都宮市中央 3-1-4 栃木県産業会館 2階
TEL. 028-632-8215 http://www.machidukuri.org/

発行年: 2018 年 第1刷 2022 年 改訂第1刷

・福田 三男 ふくだ みつお

# 「城と門前の関係」

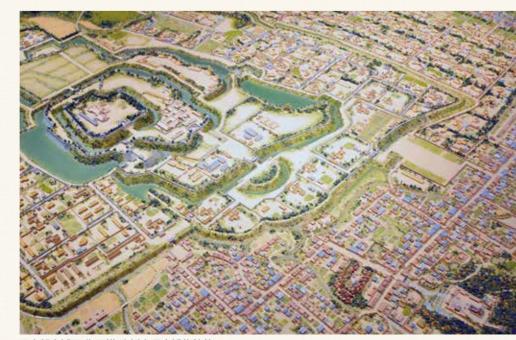
#### 福田三男

宇都宮城は10世紀から11世紀ごろ、藤原秀郷または宇都宮宗円によって建てられたといわれる。二荒山神社の南に正対する豪族居館であった。間を結んだのが馬場道、現在のバンバ通りである。鎌倉時代以後は宇都宮氏の居城となり、城郭としての整備が進んだ。

次に宇都宮が大きく変貌するのは江戸時代初期、15万5千石で城主に封じられた本多正 純が宇都宮城と城下町を大改造したことによる。現在の宇都宮の原型はこの時にできた。

宇都宮城は江戸城の北の守りであり、東照宮社参では将軍の宿城となる。堅固であると同時に壮麗さが求められた。城の中心、御本丸は将軍専用の宿泊施設、御成御殿を建てるため、 天守閣は造られなかったが、代わりに8棟の櫓と20か所以上の門を持つ壮麗で巨大な城であった。大手門を西の江野町口に移し、広小路を設けたのは、城を壮大に見せるとともに十数万人と言われる社参の行列を考えてのことであったろう。

城の東、田川との間を通っていた奥州街道を城の西側に移し、伝馬町から日光街道を分岐させた。その結果、宿場としての機能は、城の北西部にある伝馬町、池上町に移った。江戸時代末、宇都宮は関東で最も繁華な町となったのである。



■宇都宮城下 復元模型 栃木県立博物館蔵

# 「二荒山神社の祭りと氏子町」

#### 柏村祐言

江戸時代二荒山神社の代表的な祭礼に春・冬のオタリヤ大湯祭があるが、これらは神主以下の神職等が中心となって営まれたものである。これら祭礼に町民が深く関わるようになったのは、延宝元年(1673)から、大湯祭関連の行事である9月9日の祭礼行列に氏子である町民が屋台・山車等を奉納巡行するようになってからである。屋台・山車等の奉納は、町民の二荒山神社に対する篤い崇敬の表れであるとともに、経済力を持ったが武士社会の下に置かれたうっぷんのはけ口でもあった。二荒山神社の氏子は、町内単位に組織された。屋台・山車等の巡行最盛期の弘化4年(1847)には氏子町が39町存在し、それぞれ屋台・山車等の巡行に参加した。巡行順は決まっ

ており、1番馬場町、2番宮島町、3番大工町、 4番日野町で39番は小伝馬町であった。

こうした町および町名は、明治以後消滅あるいは昭和期の町名改正等により変わり、現在では自治会名として残る。二荒山神社の氏子組織は、今でも基本的には江戸時代の町、つまり自治会単位に組織されている。二荒山神社祭礼提灯に旧町名の名が記されているのが懐かしい。



リや) 写真:



■日光大明神祭礼絵巻部分(﨑尾秀彰氏所蔵、画像提供栃木県立博物館)

## 「商都宇都宮」

## 大嶽浩良

城下町宇都宮は北関東有数の商都でもあった。幕末期、嘉永7年(1854)の商人番付「家業自慢」によると、東西両大関は、日野町の崎尾新右衛門(荒物、通称荒新)と寺町佐野屋菊地孝兵衛(呉服)、関脇は寺町菊地治右衛門(貸金)・日野町の奈良屋玉尾與兵衛(呉服・太物)の豪商が名を連ねる。続いて小結・前頭となり、東側には77名、西側には79名の商人が記載されている。その中には、宮島町の丸井屋増渕伊兵衛(古着)や鉄砲町の佐野屋鈴木久右衛門(呉服・太物、通称佐野久)、池上町の丸治福田治助(旅館)らがいる。丸井屋(現丸伊)や丸治は今日に続く老舗であり、佐野屋鈴木家は明治9年(1876)、明治天皇が東北巡幸の際に行在所となったところである(現向明公園)。 荒物とは、ざるや箒などの家庭用品であり、太物とは綿や麻織物を

指す。「粋な荒新、小粋な奈良屋、 野暮は佐野久にとどめさす」。庶民 のなかで呟かれた戯れ唄である。

こうして多くの商家が軒を連ね、 商都を形成したのである。豪商たちは商家活動以外にも名を残した。 佐野屋菊地孝兵衛の子である菊 池教中は江戸日本橋での呉服商を継いだだけではなく、義兄で儒 学者の大橋訥菴と組んで坂下門 外の変を画策したのであった。



■「家業自慢」(福田重徳 『宇都宮城下史』昭和8年より一部改変)

| 事業所名      | 業態  | 所在地            | 創業年  |
|-----------|-----|----------------|------|
| 青源味噌 (株)  | 味噌  | 宇都宮市旭 1-4-32   | 1625 |
| (有) 丸伊呉服店 | 呉服  | 宇都宮市宮町 3-9     | 1629 |
| (株)シノザキ   | 材木  | 宇都宮市二荒町 8-3    | 1689 |
| (株)スズタメ   | 人形  | 宇都宮市馬場通り 2-3-4 | 1693 |
| (株) 丸治    | 旅籠  | 宇都宮市泉町 1-22    | 1752 |
| (株)虎屋本店   | 酒造  | 宇都宮市本町 4-12    | 1788 |
| (有) 橘家    | うなぎ | 宇都宮市大通り 3-3-6  | 1825 |
| (株) 松屋商店  | 傘   | 宇都宮市馬場通り 4-3-5 | 1865 |